

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
		2026年 3月 9日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		1階、2階とフロアを分けたことによりこれまで以上に快適に過ごせるになった。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な人員配置である。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		なされている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		そのようになるようにしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		スクリーンを使用し、必要に応じて対応している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		スタッフ会議などで行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		行っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼や会議で話し合うようにしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		行っている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ZOOM研修や外部研修、県外の施設と毎年情報交換研修会を行っている。	
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		確認している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		行っている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		出席している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		持っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		十分な数ではないが外部研修などで学んだ情報をお伝えする機会を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にお伝えしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		サービス担当者会議を開催しニーズの把握に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		同意を頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベントを開催し、療育参観と合わせ保護者同士の交流を図っている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタグラムにて活動の様子を掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚で理解できるようカードを用いている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		自治会に加入している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		身体拘束は行っていない。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動と学習の放課後等デイサービス みらいズ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 療育プログラム(運動・机上)メリハリがあり、切り替えや集中力強化を目指し支援している。 多機能事業所で、小学校入学前からの支援を行う事で早い段階から継続的に支援を行っている。 当事業所ご利用の子どもに限り保育所等訪問支援を行う事で多角的に支援を組み立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達症の子ども達が苦手とする、集中力の持続や切り替え、コミュニケーション能力の向上を目指し、運動・学習両面からの脳へのアプローチを行う。SSTでは集団活動での守るべきルールの理解・習得を目指し支援しています。保育所等訪問支援では学校等での困り事の把握を行い、担任の先生方と密に連携し困り事への支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育プログラムのブラッシュアップ。 児童指導員のスキルアップ。
2	<ul style="list-style-type: none"> 運動…SAQ(スピード・アジリティ・クイックネス)を行い敏捷性・切り替え・反応・体幹等の強化を図っている。 運動プログラムは理学療法士が担当し、専門的視点で立案。 毎日、行う事で運動嫌いなお子様にも体を動かすきっかけになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動が苦手な子どもにも、毎日体を動かす機会の提供、筋力・運動能力・瞬発力・反応・反射・柔軟性・バランス・視野拡大などの支援を継続的に行っています。 理学療法士による運動メニュー作成や年3回の運動評価を行い、運動能力や体力をデータ化して客観的に、ご本人や保護者様にも分かりやすくお伝えしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動プログラムの強化 児童指導員スキルのアップ
3	<ul style="list-style-type: none"> 机上プログラム 直写(集中力向上) 視知覚(ビジョントレーニング、切り替え強化) 試写(板書の練習・強化) 音読(発声、姿勢、集中力強化) かるた(協応動作・ビジョントレーニング) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での授業スタイルを基に支援を行っている。その事により学校での困りごとの軽減、集中力アップに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の見直し、作成。 プログラムの指導方法の見直し。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の秋までは、キャンセル待ちも多く受け入れが出来ない曜日があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の規模・受け入れ人数(定員管理) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年11月より増設し定員を増やして対応している。
2	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの細分化が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団での日課を行っているので学年や、特性に合わせた支援が難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年でフロアを分けた事により、個別支援や小集団での支援が可能となった。 新しい取り組みなどもフロア分けをする事で取り入れやすくなった。
3			